



センダンの花：大阪市内の公園

トピックス：山地災害に備える（治山課）

ニュース：総務課、治山課、石川森林管理署、山口森林管理事務所、
新規採用者紹介、新任幹部紹介

お知らせ：森林のギャラリーほか

花草木：ノースポール

我が署のスタッフ：滋賀森林管理署

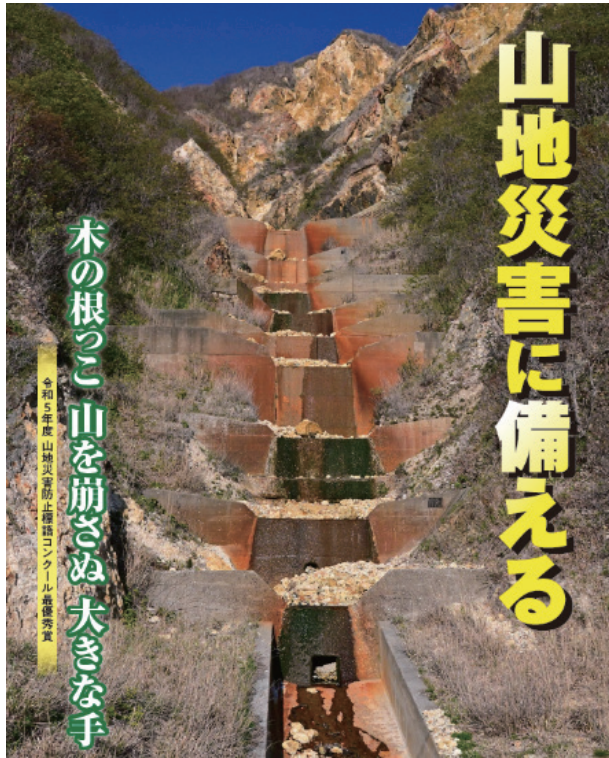
森林事務所紹介：日原森林事務所（島根森林管理署）

国有林最前線：兵庫森林管理署

「山地災害に備える」 令和6年度 山地災害防止キャンペーン

【治山課】

●令和6年度 山地災害防止キャンペーンポスター



元年～令和5年の5ヵ年平均)もの山地災害が発生する、災害大国でもあります。

日本の国土は険しい山地が続く複雑な地形のため、河川の幅が狭く急勾配の場所が多くなっています。また、年間降水量が世界平均の約2倍ときわめて多く、洪水等の水害が非常に発生しやすくなっています。加えて、大陸プレートと海洋プレートの境界に位置しており地震や火山活動も活発で、土砂災害も起こりやすいのです。

さらに近年、1時間降水量50mm以上の強い雨が短期間に繰り返し発生することも多く、未曾有の災害に見舞われた地域では、多くの人命や財産が失われるとともに、ライフラインの寸断といった甚大な被害が発生しています。

災害時に被害を少しでも減らすためには、一人一人が地域の災害リスクを理解し、適切な避難行動を行えるように日頃から準備しておくことが大切です。

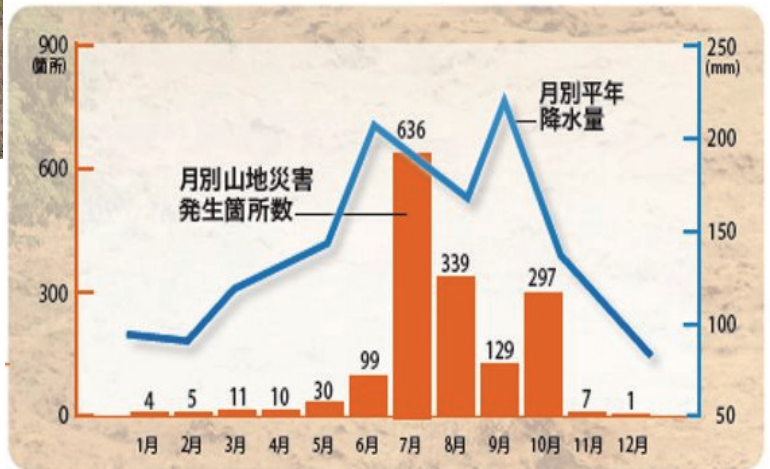
そこで近畿中国森林管理局では、本格的な梅雨期を前に、毎年5月20日から6月30日にかけて「山地災害防止キャンペーン」を実施し、災害被害軽減に向けた啓発活動を行っています。

今回はこのキャンペーンの詳細と、山地災害防止に向けた取組をご紹介します。

●我が国の自然条件

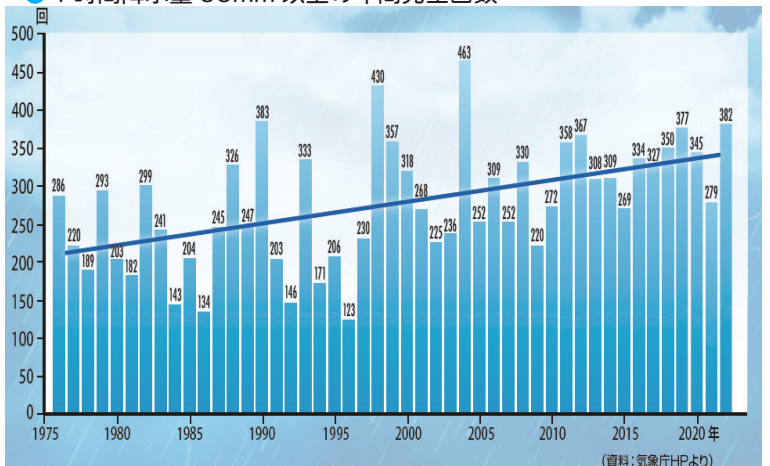
日本には山と海に囲まれた自然豊かな魅力があります。一方で、その独特な地形や気候条件から、毎年約1,600箇所(令和

●月別の降水量と山地災害発生箇所数



※月別平均降水量は、理科年表(平成15年)から作成山地災害発生箇所数(全国)は、令和5元年～令和5年の平均

●1時間降水量50mm以上の年間発生回数



※全国のアメダス地点で1時間降水量が50mm以上となった年間発生件数(1300地点当たりの回数に換算)太線は5年移動平均値

●近畿中国森林管理局での取組

当局では、本キャンペーンの実施に併せて、山地災害防止を啓発するポスター掲示、パンフレットの配布といった広報活動のほか、関係機関や地域住民の方のご協力のもと、山地災害危険地区の周知やパトロールの実施など、山地災害に備えるための活動を行います。

また、キャンペーン期間以外も、日頃から山地災害防止に向けた治山対策を実施しています。

本年1月1日16時10分に発生し、甚大な被害をもたらした令和6年能登半島地震においては、発災当日に災害対策本部を設置、翌2日にヘリコプターによる被害状況調査及び石川県へのリエゾン派遣を行い、被害の早期把握に努めました。

1月中旬からは、石川県から人的支援について要請を受け、「能登半島地震山地災害緊急展開チーム」を編成して現地に治山技術者を派遣し、緊急点検や復旧方針の策定等に向けた支援を行っています。

特に大きな被害を受けた奥能登地域の輪島市及び珠洲市内の民有林では、石川県の要請により、国直轄による災害復旧等事業を実施することとし、4月1日に奥能登地区山地災害復旧対策室を開設、4月12日に開所式を行いました。今後も石川県内の関係機関等と連絡調整を図りながら、被災地の早期復旧に取り組んでまいります。

●おわりに

管轄範囲の広い当局では、いつどこで災害が起きてもおかしくないとの前提で必要な備えを強化していくことが重要と考えています。引き続き、治山対策等を通じて地域の安心・安全を確保し、災害に強い森林の再生に向けた取組に尽力いたします。

●昨年度の啓発活動の様子（左）近畿中国森林管理局（右）宍粟市役所



●令和6年1月2日

能登半島地震災害のヘリコプターによる被害調査



●治山技術の派遣（左）点検対象箇所の確認、（右）現地調査



●令和6年4月12日

奥能登地区災害復旧対策室 開所式

